

人権さんだ

1 月号

令和7年(2025)

No.550

失語症って？

～「見えない障害」を知る～

《問い合わせ》

健康福祉部 人権共生推進課

TEL : 559-5148 FAX : 563-7776

E-mail : jinken_u@city.sanda.lg.jp



▲ 「NPO 法人 言語障害者の社会参加を支援する会 シャベローよ」の皆さん
後列左端が田中加代子さん

失語症になると、日常生活や社会生活に支障が出て様々な困難に直面しますが、目に見えない障害のため、周囲からサポートを受けにくいことがあります。今回は、失語症者やその家族などで構成する「NPO 法人 言語障害者の社会参加を支援する会 シャベローよ」(以下、「シャベローよ」という)の田中加代子さんにお話を伺いました。

失語症の主な症状

- ・ 伝えたい言葉がうまく出てこない
- ・ 相手の話を理解できない
- ・ 文字や文章が書けない、書かれている内容が理解できない

皆さんは、「失語症」という障害を知っていますか？失語症は、脳卒中や交通事故などにより、脳の言葉を司る部分がダメージを受けることで起きる言語障害です。失語症になると、「話す」「聴く」「読む」「書く」といった言葉の働きに何らかの不具合が生じます。(症状や重症度は人によって異なります)

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



田中加代子さん
(NPO法人 言語障害者の
社会参加を支援する会
のしゃべろーよ)

どのような活動を行っていますか？

自分の言いたいことが、相手に伝わらない。のどまで出かかっている言葉が言えないほど、辛いことはありません。

失語症は、話すことだけでなく、理解すること、読むこと、書くことが困難になるコミュニケーションの障害です。身体の機能障害も重なり、社会参加の機会を諦めてしまう人も多くいます。しかし、適切なリハビリテーションを受け、周りの人の理解と配慮があればコミュニケーション機能の回復をはかることは可能です。「しゃべろーよ」では、同じ障害を持つ仲間や家族が集まり、安心して社会参加できる交流の場を提供し、情報交換やコミュニケーションを楽しむような活動を行っています。

活動のきっかけは？

夫は30代のときに脳卒中の後遺症で失語症になりました。突然話することができなくなりましたが、

当時は、リハビリを頑張ればきつと話せるようになると思われて止まない毎日でした。ところが、左脳の損傷部位により症状が現れるという病院での説明を受け、「失語症」は、声が出なくなる「失声症」(※1)とは全く異なるものであることを知りました。

言葉が分からないという本人はもちろん、家族もどう接したらよいのか分からず共に苦しむ日々が続き、自分たち家族だけが地域の中で孤立しているような感覚でした。リハビリに通っていた京都の病院では、同じ障害を持つ仲間とのグループ活動の中で、言葉を介さずともお互いを思い合えるコミュニケーションの心地よさを感じました。そうした仲間との活動に家族ぐるみで参加する中で、次第に自分たちだけではないという前向きな気持ちに変わっていきました。

三田でも失語症者は他にもおられるのではないかと、仲間づくりを通して励まし合おうと考え、作品展「ゆめひろば展」を開催したところ、少しずつ失語症者の輪が広がっていきました。

そのような中、平成7(1995)年に阪神・淡路大震災があり、

避難所で聴覚障害者への支援活動を体験し、失語症の夫にも支援が必要だと思いました。長年温めていた仲間づくりの大切さを痛感して、誰かが声をかけてくれる地域を作ろうと、同年7月に「しゃべろーよ」を立ち上げました。

※1 失声症：声帯や脳などに異常がないにも関わらず、精神的ストレスなどが原因で声が出なくなる症状

活動のモットーは？

「自分のできることを喜んでしよう！」という言葉を大切にして活動しています。ありのままの自分でいい、大病から生還した命を大切に生きて生きようという思いを受けとめた「しゃべろーよ」の理念です。

コミュニケーションは人と人との繋がりの中ではなくてはならないものですが、それがうまくできなくなる失語症は、社会的フレイル(社会とのつながりが減る状態)になりやすい障害であると考えられます。人との関わり方が分からなくなり、コミュニケーションをとることが怖くなってしまふ人もいます。「うまく話せないから…」と諦めて

しまう前に、まずは一歩、思い切つて外に出てみてほしいです。同じ失語症を持つ仲間と同じ時間を共有し、助け合いながら、コミュニケーションの楽しさを取り戻していくことを願っています。

活動を通じた変化は？

「しゃべろーよ」では現在、2カ月ごとに「失語症カフェ」を開き、それぞれの悩み相談や情報交換を行い、参加者全員でゆっくり、あきらめない会話を楽しんでいます。会話を通して笑顔が広がり、コミュニケーションの機会が増えていくことで自信を持てるようになっていきます。

また、「ゆめひろば展」さんだ」と題して絵画や切り絵、写真などの作品展を開催しているほか、交流会も行っています。参加者は「失語症があるから…」という後ろ向きな姿勢から、目標がある生活へと変化し、生活の楽しみを見つけていっています。

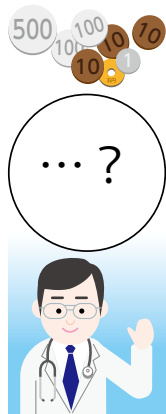


▲失語症カフェのようす

周りの人に 知ってほしいこと

失語症になると日常生活で様々な困難に直面します。

- ・ 回覧板や学校からの手紙の理解が難しい
- ・ テレビのニュースを見ても詳細な理解が難しい
- ・ 買い物に行ったときに細かいお金の計算が難しい
- ・ 病院の受診時に医師への説明が難しい、指示が分からない

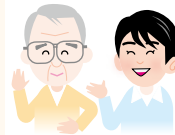


また、困っていることをうまく伝えられないため、助けを求めることにも苦労します。友人や近所の方とのコミュニケーションも難しくなり、その結果外出に消極的になってしまふ人もいます。

しかし、失語症になっても言葉を使わないコミュニケーション能力は保たれている場合があります。そのため、ジェスチャーや表情で交流を図ることは可能です。

失語症者にコミュニケーションをとるときのポイント

- ・ ゆっくりと話しかける
- ・ ジェスチャーや表情も交える
- ・ キーワードをはっきり伝える
- ・ 絵や写真、図などを使う
- ・ 「はい」「いいえ」で答えられる質問や、選択肢を用意して指さしができるようにする
- ・ 失語症の方が言い間違えたりきは、それを指摘せずさりげなく「〜ですか?」と聞いてみる



失語症は話をしてみて初めて分かる障害です。目に見えない障害のため、支援を受けにくく困っている場合があることを知ってもらいたいと思います。

失語症のほかにも発達障害や精神障害などの目に見えない障害を抱えて、日常生活で困っている人や生きづらさを感じている人も多くいます。見た目では分からない障害もあることや、その人が抱えている困難について一人ひとりが知り、寄り添っていききっかけになることを願っています。

「しゃべろーよ」の活動に 関心のある皆さんへ

「しゃべろーよ」では、失語症者やご家族、活動の趣旨に賛同する人を対象に会員を募集しています。関心のある方はぜひ一度ご連絡ください。

<お問い合わせ先>

「NPO 法人 言語障害者の社会参加を支援する会
しゃべろーよ」
〒669-1533 三田市三田町 35-21 「トークゆうゆう」内
電話：079-559-0804 FAX：079-558-9999

失語症者向け意思疎通支援者 派遣事業について

三田市では、今年度から失語症者を対象に意思疎通支援者の派遣事業を始めました。市役所や銀行などへ手続きに行くときや、病院を受診するときなどに同行する意思疎通支援者を派遣します。

<お問い合わせ先> 三田市障害福祉課
電話：079-559-5075 FAX：079-562-1294
※詳細は市ホームページをご確認ください。



利用にあたっては、事前に利用者登録や派遣申請が必要です。

令和6年度 人権ポスター・標語受賞作品



けやき台小学校2年
松本 莉央 さん

● 幸せは、
産まれた時から
もっている
● すぐかけ台小学校6年
中村くるみさん

くらしの人権相談

TEL 559-5062 FAX 559-5063
月曜～金曜 9時～17時（※祝日・年末年始を除く）

● 専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談（予約）

TEL 559-5062 FAX 559-5063
月曜～金曜 9時～17時（※祝日・年末年始を除く）
※専門相談員との相談日は予約後に調整

● 人権擁護委員による定例人権相談（予約）

TEL 559-5148 FAX 563-7776
《次回相談日》1月23日（木）13時～16時

「みんなで協力！
困っている人を助けよう。」



三輪小学校3年
藤村 悠生さん

子どもたちからの

メッセージ

子どもたちは、学校や地域社会で様々な人と出会い、多くの体験をしています。嬉しい体験や楽しい出会いもありますが、子どもたちにとってつらい体験もあるでしょう。様々な出会いの中で考えたことや気付いたことを、自分なりにまとめ発表したり作文にまとめたりすることで、自分自身の心を見つめる機会となり、子どもたちは成長していきます。

今号から、市内の小学生・中学生が書いた人権作文を掲載します。12月7日(土)に三田市総合文化センター(郷の音ホール)で開催された「人権と共生社会を考える市民のつどい」において発表された作文です。

「性別と自分の生き方」

ゆりのき台小学校6年

鈴木 咲乃さん

「皆さんは今まで自分の性別に悩んだことはありませんか？」

「性別のことで悩んでなんかいない！」と今の自分なら堂々と答えることができます。しかし、以前の私なら「沢山悩んでいます」と答えていたと思います。

私は以前まで自分のことを「僕」と呼んでいました。しかし学校での発表の時や、感想文、意見文などを書く時「周りに変に思われて、嫌われるかも知れない」と思い心の中では「私」と言うことに違和感がありながらも「私」と書いていました。自分を偽ることが嫌でした。そのことをお母さんやお父さんに相談すると「あなたが僕って書きたいなら書いたらいい」と言ってくれました。皆さんも「気

にせず書けばいいんだよ！」と思うかもしれない。口に出して「私」と言うだけのこと、ただ紙に「私」と書くだけのこと。「たったそれだけのこと」が私には難しく、することができなかつたのです。

しかし、私が性別のことで悩まなくなつたのは、ある友達との出会いのおかげです。その友達は、可愛い人形や可愛い鉛筆など、とにかく可愛いものが好きな男の子でした。私はその男の子と出会った時、「なぜ男の子なのに、こんなに女の子が好きそうなものばかり持っていたり、欲しがったりするんだろう？なんか変わった、不思議な子だな」と思ってしまいました。しかし、よく考えてみると、私自身や私の周りにいる友達も同じだということに気が付きました。私も女の子ですが自分を「僕」と呼んだり格闘ゲームをよくしたりしていました。よく周りを見てみると、格闘ゲームや野球をしている女の子。とても髪の毛が短い女の子。人形のお裁縫をしている女の子。かわいいものを沢山集めた女の子。ピンクの服を着ていたりする男の子。一般的にイメージする女の子や男の子とは違う友達。沢山周りにいました。私はその友達たちに直接的に何か励まされたわけ

も声をかけてもらったわけでもありません。ただ自分らしく生きていくその友達たちの生き方に救われました。

この経験から私は、ただ自分が自分らしく生きること、自分が相手に何かしていなくても、性別で差別を受けている子や自分の居場所がなくて困っている子達を救えるのではないかと考えます。実際私は、友達がただ自分らしく生きていくだけで心が救われたので、皆さんも自分らしく生きてほしいです。

改めて聞きます。皆さんは性別のことで悩んでいませんか？

もしあなたが悩んで無理をしていても自分自身が幸せに生きることはできません。きっと以前の私のように偽った自分が嫌になると思います。

なので、これからは、私は「私の思う」女の子として生きていきたいです。そして皆さんも、自分の生き方を恥ずかしいと思ったり「くらくらく」と考えたりしないでください。自分の個性を大切に、「あなたらしさ」を出して生きていってほしいと思います。

人権さんだアンケート

ご感想や今後取り上げてほしいテーマをお寄せください。

